



## 「佐渡米」現地研修会

7月5日に、佐渡米のブランド強化に向けての、品質向上と気象変動に負けない米づくりを目指し、「佐渡米」現地研修会が佐渡農業技術センターのほ場で開催されました。

参加者は180名、4班に分かれての研修を行いました。7月3日現在の生育状況（草丈・平年並み、茎数多い、葉色は並）を確認し合い、穂肥の施用時期診断の方法を研修しました。また、有機栽培の実証試験ほ場では、ポット成苗移植をしたことでの初期生育向上と、新たな技術を用いた雑草抑制の結果を確認しました。

気象変動により緊急的に実施する技術対策や、外観品質を低下させないように肥料不足にしない計画的な施肥を行うことを、学びました。新たに、刈取判定器を設置し、その性能に参加者全員興味津々でした。

穂肥施用時期診断の研修では、実際に稲の茎を分解し、幼穂確認することを体験しました。

最後に、参加者全員で今年こそ1等米比率90%以上を実現しようと確認し合い研修終了となりました。



幼穂確認体験

## 佐渡高千家畜市場

7月2日、佐渡市北川内の高千市場で佐渡産牛の競り市が開催されました。子牛一頭当たりの平均落札価格は48万4345円と高値の取引となりました。今回は子牛や成牛約80頭が取引され、約20業者が買い付けに訪れました。競り落とされた牛は各地でブランド牛に育成されます。



## トキ情報

今年生まれたヒナの肉28羽が無事巣立ちしました。これで放鳥トキ95羽と1昨年から生まれたヒナ39羽の計134羽が佐渡の空を飛んでいることになりました。



## 生育情報（7月3日現在）

草丈の平均54cm、平年並。茎数596本/m<sup>2</sup>で平年に比べて多い。葉数や葉色を確認した結果、ほ場毎の差はあるものの、生育はやや進んでいるようです。



2年前から佐渡で農業に取り組んでいる古玉さんを紹介します。

古玉浩三さん（44）（こたまこうさん）

二年前に佐渡に移住し、現在水稲120アール・樹園地40アール・畑35アールに取り組んでいます。

秋田県の出身で、二十代後半で農業と縁があり、新潟農業法人に就職し、五年後、熊本県や千葉県等各地で多様な農業を経験し、結婚を機に佐渡に移住、奥さんと子供二人の4人暮らしをしています。この日は、キャバツの収穫の最盛期で、畑で作業しながらお話を聞きました。「佐渡は気候も土質も水稲に適しているようです。一方で畑に適する場所は少なく、いまのキャバツ畑は砂地で水はけが良く、その反面水管理も大切。野菜作りのこだわりとしては、農薬をあまり使いたくなくて、千葉県に住んでいたときに農薬5割減を試行しながら確立し、千葉県の基準でキャバツ防除回数16回のところ、6回でやっています。今後は無化学農薬・無化学肥料のキャバツを作りたいと思っています。」



新就農者として、行政には多様な支援を、農協には利用しやすくてもっと相談ののってもらえるように期待しています。一人で作業するのは大変だけど、まだまだ挑戦したい農法があるので、頑張りたいです。」と語ってくれました。



## 島の担い手

今後も担い手農家を中心に紹介させていただき、佐渡の農業事情について皆様にお知らせします。